

尿路結石症の外科的治療

井上 貴昭, 岡田 真介, 濱本 周造 著

＜書評者＞ 宮原 誠（入間川病院泌尿器科部長）

本書は尿路結石治療に携わるすべての医療者（医師，看護師，臨床工学士，放射線技師）へ，確かなエビデンスと実践的技術の解説および提供を目的とした書である。著者の3氏は，尿路結石治療を現役で牽引する誰もが認めるエキスパートでありながら，謙虚にかつ貪欲により良き治療をめざし常にディスカッションを重ね，現場にフィードバックし，日本に海外に情報発信する素晴らしい医師たちである。それゆえに本書は実臨床，治療戦略，患者管理にきわめて有用かつ実践的な内容で構成されている。

本書は「基礎知識」，「治療の実際」，「Case Discussion」の3部で構成されており，それぞれがとてもユニークである。まず第Ⅰ部の「基礎知識」の内容が必要十分を究めている。他書のような無駄なうんちくは全くなく，しっかり網羅かつ伝わる文章・写真で，これ以上簡潔に伝えることは無理であろうという解説である。また，「術前の感染マネジメント」を基

礎知識に入れており，患者への畏敬の念を感じた。

第Ⅱ部の「治療の実際」では，リアルに手術しているかのような印象を受けた。先輩方が作り上げてきた正しき方法論をエビデンス，理論をもってわかりやすく解説している。手術前の準備や機器類の配置までこと細かに提示していること，手術中の医師の動きや合併症の種類や対処法を曖昧にせず具体的に記していることは本当に役立つ内容である。特にECIRSにおいて，具体的な腎盂鏡の操作方法を解説したり，それによる尿管蛇行の発生を正しく言語化したり，尿管ステント，腎瘻カテーテルを留置する場合の状態を具体的に列挙かつ網羅している内容は，本書以外にない。つまり第Ⅱ部は手術中に悩むことすべてに答えを提供しているのである。

第Ⅲ部の「Case Discussion」は，結石治療に携わっている医師が必ず出合い悩み苦勞する症例ばかりを集めた実践的な部門である。その症例おのおのに，治療戦略から

予測される合併症，患者への説明内容をこと細かに記しており，即臨床に応用できる内容である。エキスパートがこの章を読めば反省と共感が湧き出てくるであろうし，ビギナーが読めば起こるかもしれない合併症を極限まで低減できるであろう。最初にこの章から読むのもお勧めである。

この本に課題があるであろうか？ もしあるとしたらこれから結石治療を始めようという医師たちにはあまりにも膨大な知識と注意点に戸惑いを感じるかもしれない。しかしどんな外科的治療もそうであるように，事前に得られる情報はすべて取り入れてこそその尿路結石治療である。この書を読み終えた後そんなメッセージが聞こえてくるくらい著者らの熱量を感じた1冊である。

● A4 頁168 2024年10月
定価：14,300円
（本体13,000円＋税10%）
[ISBN978-4-260-05440-9]
医学書院刊